

富士見小学校校歌と尾崎喜八

富士見小学校校歌

作詞：尾崎 喜八
作曲：和田 則彦

一、連なる峰は八が岳
はるかに高い富士の山
空気は清く光ゆたかな
ここは信州富士見高原
ここに生まれてここに育つて
ここにみんなで学ぶさいわい
そのさいわいを忘れまい

二、真冬の雪に春の花
みどりの夏に鳥の歌
もみじが照らす谷の秋まで
ながめつきない富士見高原
ここに育つてここに学んで
やがて世に出る時の心を
この学校で磨くのだ

三、理想は高い空の雲
心は広い地のながめ
両親、仲間、先生たちの
愛の思い出富士見高原
ここで学んで人と成る日も
幼な心の帰るふるさと
このふるさとを忘れまい

校歌制定昭和47年



校歌碑除幕式（昭和47年11月16日）
碑前に立つ尾崎喜八

校歌の作者の尾崎喜八は、約30校の校歌を作っている。富士見小学校の校歌は尾崎最後の作である。富士見小学校の校歌を歌うとき、その都度「この子どもたちに富士見小でみんなて学ぶ幸いを感じさせたい」と気持ちを新たにする。

校歌の1番には、「そのさいわいを忘れまい」、2番には「やがて世に出る時の心をこの学校で学ぶのだ」、3番には「幼な心の帰るふるさと このふるさとを忘れまい」とあり、まさに富士見小の教育の願いが、この校歌にこめられている。

校歌は、富士見教育の原点である。